

日六時報

知事司五月十八日火曜発行

日本軍が毒ガス使用説

米軍毒ガス使用説

アツル島に終止戦報

華府月曜日聯合通信は、米軍天軍がアツル島日本艦隊を包圍して激戦中なるを報じ、天候險悪にして、米軍の徹底的攻勢を許さずとも唯一日の天気晴朗の時、米軍は米軍の軍事目的は完結するに當局は絶対観して居る。尚、華府に於ける海軍者情報に数日間の沈黙を破つてアツル島尚交戦継続中とのみ發表した。公報に非る他の情報と適合するに、東京放送華府民間接受ではアツル島南岸に激戦中とあり

陸軍省情報部長デュー、ベイ大佐はアツル日本兵掃蕩後はキスカに手を入れると報じ

三、尚、アラスカ領より、日本侵入軍を駆逐せば、クイライル海峡(雷路領カムキヤツカと日本の千島、右守島間)の日本基地並にパラムシ島を攻陥すると発表し

四、日本側の唱ふる如く米軍が毒ガスを使用せし事實ありと否定した。

十億噸造船費通過

華府國際電(本)日下院を通過し上院に廻附された。海軍造船費は拾七億萬并中海外戦場と使用する上陸作戦用の小艇が無数に計上され、總噸數拾億萬噸とある。

一ヶ年免稅新予算通過

ロムル安末新稅法が上院を通過した。一九四三年滞納稅支拂皆済期を戦後まで延期する事を條件とした。其後同附された下院に於ける同意案は、右の條件は、大統領がこれを拒否するを以て、大總統がこれを評定に入つた。華府聯合通信は本日中午採決し、明水曜日に白亜王館へ送附することにした。日報導したが、大總統願の諒解を得て居る事を附言して、議會の勝利を予報した。因に採決の結果は、下院通過疑い無しであるといふ。

平和使節の往來

羅馬法王に平和提唱進言した。傳ふる米國紐育萬教會正スベルマンは其後渡支の途上、パレスティンに足を駐めたが、昨日法皇が平和提唱せし時は、イースタンブル(元コンスタンチノール)に着いたクラリジョ法皇秘書も同伴した。然し、スベルマン傳は、同伴者であり、法皇の村工耳古特使に非ずと否定した。

聯合國食糧會議開催

二百名のカード附警戒記者軍數手退さる

ワトスプリング(國際電十七日)本日、聯合國側各代表は、向例の秘書、速記係を帶同、ホームステドホテルに乘込んできた。代表者の乗込汽車保護を爲す二百名の兵士が、其旅館をとり、嚴重に警戒。特に武装兵士が新聞記者の接近を妨げんとする態度をうけた。各新聞社を代表して、ガーゼット紙のニバルが、各代表と個人的會見を申し込んだが、當局より拒絶された。之は、大統領の個人的意見に依るものらしい。尚、合同の大會議の議長は、米國側代表者の一人、マーヴィン・ギョウエ判事が之に當ると傳へられる。

豆ニエス

△米國は今午米途上、六万五千人の看護婦を養成し、左ければおらぬと。
△ニエカレトニアの工人は非常に文化人で、自費でハイモニカを奏すると米國通信員が傳へてある。
△豪洲には、ゴムをセーフするため、自動車は時速四十哩より三十哩に制限。
△全米在郷軍人團長、ランクリンが北阿戰線視察、印家の論文を發表して、一九四四年に野心ある者と見られるとある。

第五大隊厚生機關行事日程

午前九時	午前一時	午後七時
佛典講義(宗)	祈禱會(宗)	日本画 五社
聖公會(宗)	放送(時)七食	基督教(宗)
梵唄(宗)	音樂(娛)	英語(初)圖
	習字(五社)	英語(中)五社
	祈禱會(宗)	神道講義(宗)
	放送(時)七食	日本画(五社)
	祈禱會(宗)	講演(講)五社
	梵唄(宗)	英語(初)圖
	祈禱會(宗)	英語(中)五社
	音樂(娛)	基督教(宗)
	習字(五社)	佛敎研究會(宗)
	祈禱會(宗)	
	放送(時)七食	
	祈禱會(宗)	文化講演(宗)
	放送(時)七食	
	佛敎(五社)	
	時事解説(大石氏)	
	一時半(宗)	
	宗 宗教堂 五社 五中隊社堂、六食	
	六中隊食堂。團 圖書室。娛 娛樂室。七食 才七中隊食堂等判讀あり	
	◎佛敎講座 (ノート持考り)	
	今、拾八日(火)午後七時半	
	才十二中隊食堂	
	講、佛敎(佛の子供)	
	正信偈才廿二講 什岡隆英師	



早婚早産の記録

晩婚の婦人ならば、今頃漸く結婚を
する二十九才の女が、現役兵士の母親
である事か、本日テキサス州ハウストン
で判明し、流石に早婚に敬馬かぬ米
国でも、これは、と話題を作ったが
此女の名は、ノラ、エル、ジョンと呼ぶ訪問
の記者に、顔を紅葉に染め、おから
以下のローマンを物語った。私はア
ラバマ州のエンタープライズで、九歳の時
前の亭主と結婚しました。デミ(亭主
の名)が私にキャンデーやオレンヂや又私
の好きな着物を買ってくれ、結婚
する氣に成つたのです。長男は、私が十
歳の時生まれ、十五歳の時娘が生まれ
ました。私が結婚した時、体重が六十斤
でした。私共二人が郡役所へ結婚届
けに行くと、お役人が、デミに向つて、お前
は、二人の子供と結婚してどうするつ
しりかぬと尋ね、私に彼は是れ何事か
したか、デミが豫め何事も言ふなと
口止めしてゐたので、私は黙つて居り、
教會で結婚式が終り外へ出ると
私は一生懸命に自分の家へ走り歸り
ました。それは何かしら間違つた事を

仕出かした様子が氣がしたからでした。
家に歸つた時、私のお母さん、は表を掃
いて居りました。私がデミと結婚した事
を話すと、母はビツクリ仰天し、持つてゐた
誓いでデミと私をふりつケ二人の結婚を
認められぬやせんでした。母は私に、子供
のお前にどうして女の道がつとまるかと氣
狂ひの様に腹を立てました。けれど、其後
十年程デミと暮らして、夫が夫婦喧嘩
をして拾一年前離婚し、其後現在の亭
主と、エルパソで知り合ひ、とうとう結婚しま
した。長男のデミ、シモンは昨年七月
満十八歳で兵士となり、現在サンディエゴ
兵營に居ります。云々(ハウストンU.P.報)
流れるが知らぬと柿の初ちヨリ

誤れる祖先 (十三)

日本人嫌みの没分曉漢を除いた
全このツウインフオールの市民は
日本人に対する態度が彼等と
異なり、ミニドカセンターが如何に
同市のビジネスに大切であるか
をよく知つてゐた。
最近ミニドカセンターの当局は
日本人の外出に對するパスの發
給を甚しく制限するに至り、ウ
インフオールの市へ出る者の数を
一日平均僅かに十人に減少した。
従つて同市の商人は彼等、ホ
ケトブウクに、こたへて来た事が
分り始める様になつた。

◎日本の親心(在米同胞へ)

萬國赤十字社の在米代表は、日本赤十字
社より万國赤十字社に依頼したる件を、
昨日午後、当ロリスパーク日本人收容所司
令官に移牒あり、レッドベーター司令官
は直ちに西知事を招致し、右公文を提
示したる由な、其内容右左の如し。
日本赤十字社は、米國に於てインテン
サレてゐる日本人の、在日本子々の生活
は完全に保障され、居る故に、何等
の憂慮の要無し、且、右日本人に周
知方、萬國赤十字社に依頼し、有候
就りては、貴官に於て、貴所内日本
人代表に可然右傳達方願、候
以上

同市の商業會議所、合頭クロ
ード、デトワイラーは、最近ある
合会で市民に對し、左、如く警告
を出した。
若し日本人に對し、いかに、
とを云ひ、又は、乱暴な態度
を執るならば、センターの日本人
は安全なるキャンパから外へ出
る事を欲し、なり。其の場合、
一般農園の收穫とビジネス
は夥しい打撃を蒙る事と
なる。センターの日系市民は、
ウインフオールの市の大事を
得意と在り、ある。彼等は、
一度買物をした、それを取替
へたり、戻しに來たりしない。

買物の撰擇は、手早く、然も良
品物を買つて、行く、か、實に
商店にとつては、上、得意である。
タウンの態度が改善
ツウインフオールのター4ス、ニ
紙の記者、ジエー、ミューレンは、同
市々民一般の日本人に對する態
度が変わつた事につ、左の如く、説
いた。
我々は、收穫期に於て、日本人
再移住者の援助が無かつた
ならば、ゴツタ、返した、あつた。
従つて、日本人に對する、我が社
會一般の態度は、公然たる
敵性から、友交的歡迎の態

然し、あがり、多、數の米國市民、
特に一杯、機嫌の者は、日本人
をセンターに置く事は、我々、自
の負擔である、と主張する。
夏、暑し呼吸せは、し、飼、免

能本縣人懇親會

五月二十二日(土)夕七時より
津九中隊食堂にて開催
の懇親會、出席者、を、
日照郷吟社、互送、句抄

題、砂嵐、日盛り。

砂嵐、沙漠を、雲に、敷、か、り
鬼雲の、映、ゆる、國境、や、日、の、盛、り
もの、陰、を、縮、き、り、て、日、の、盛、り
日盛りや、繩、ゆる、と、無、い、風、の、色
また、こ、射、る、ユカ、の、尖、り、や、日、の、盛、り
日盛り、熱、吐、く、砂、の、曠、野、哉、一、星
日盛りや、大氣の、燃、ゆる、砂、の、原、春、岳
次回課題
可片陰。日陰。
x 切
五月二十二日